



Photo : Michibata Osa



道具は十分に揃っているものの、設計ミスだという木工部屋。作業するには狭すぎたらしい。
「今手に入らなかったら、いつ手に入れたらいいんだ!?」で購入した、夢にまで見ていたウッドベース。
新築祝いで仲間からもらったドクロの灰皿。もったいなくて使っていないとか。メッキの灰皿はお気に入り。



ステッカーやポストカード、ハンドタオルなどはすべてH-Dディーラーでもらったもの。今では潰れてしまったコンビニのおばちゃんくれたH-Dタバコは未だ吸わず。



幼稚園だった頃の息子さんから誕生日プレゼントでもらった貯金箱。



仲間からも頼まれる革細工の腕前は見事で、以前は黒づくめの格好だったが現在は全身を茶色で統一。



ガラスケースの中にはミニチュアバイクが整然と並ぶ。純正部品も捨てるのではなく、すべて保管されている。



ウエスタンショップで買った鞭。以前はいつも身につけていたらしい。



以前勤めていた会社の同僚を通じて、木工屋さんからもらった木製のバイクオブジェ。



ハンドルが折れている目覚まし時計。毎朝このエンジン音で起きているようだ。



「カウボーイはみんなカヘルトをしている」といふ思い込みで購入したカヘルト。



リサイクルショップの処分セールにて、格安で購入したオブジェ。ギターが折れていたために、どうやら見切り品だったらしい。



近所の小さな本屋で買い集めたというイーザーライダーズの日本語版。VIBES創刊号と出会った本屋でもあり、なんでも集めてしまうのはコレクターの性分なのか?!



H-Dを買った時に付いていた純正サドルバッグ。コンチョは他のバッグに移植。



家族旅行でディズニーランドを訪れた際に、記念で撮ったというパステル調の写真。

人生のすべてが詰まった棲家。



20代半ばでH-Dという夢を掴んだタテさん。ロックからバイクへと移行した情熱は今も変わらず奮も溶かす勢いだ。ステータスだったというバー&シールド...アメリカン雑貨につられるようにハーレーグッズも次第に増えてきた。これまでに積み重ねてきたものがすべてここに詰まっている。
「どんな場所でも居心地がいいんです。僕にとっては最上級のスイートルームですね」部屋に在るだけで「ソフット」と自分でも笑っちゃうくらいにニヤケ顔になってしまふ。

部屋中に溢れ返ったレトロなアメリカン雑貨。部屋の主である立山(通称..タテ)さんにとっては、そのひとつひとつに物語が存在している。リサイクルショップはもちろん、「欲しいと思ったり欲しいんです」それは売り物でなかったとしても交渉して手に入れてしまうほどである。そこにモノが捨てられないという性格がプラスされる。モノを集めた出たのは10数年前からで、アパート住まいだった当時は8畳の収納部屋に詰め込んでいたらしい。今の一軒家に引っ越してからというもの、この空間は単なる部屋ではなく、まさに「城」と呼べるものに変わっていった。仕事を終え、3人の子供たちとの食事を済ませてからがタテさんタイム。1杯やりながら仲間と騒いだり、時には革細工をしてみたり、何にも変えたい自由な時間を過ごす。悩みといえは冬寒いことくらい。「自分の好きなモノに囲まれていたい...」



リアルタイムで買ったVIBES創刊号などバイク系雑誌が多く並んだ本棚には、LPレコードも置かれる。他の棚にも本が溢れる。



コレクションテーブルに置かれた順番待ちのコンチョ。1個だけ買うと高いのでまと買いするとか。



大きなアメリカ国旗の裏側は収納棚になっている。



会社の退職送別会で使った木製ボードは工具かけに。



ガンダム系のミニチュアの数も半端ではない。



数々のMTGパッチがコルクボードに貼られている。



立山利春 41歳。北海道在住。'89年式LSTC所有。「RODEO-DRIVE SAPPORO MC」代表。